

博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

機 関 名	千葉大学	整理番号	O03
プログラム名称	免疫システム調節治療学推進リーダー養成プログラム		
プログラム責任者	中山 俊憲	プログラムコーディネーター	斎藤 哲一郎

博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

[総括評価]

計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

[コメント]

リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、学長のリーダーシップのもとに、千葉大学医学薬学府の博士課程への入学者の中から本プログラムへの入学希望者のトップ 10 名程度を選抜し、ローテーション演習や国内外研修での教育、国際水準で行われる厳格な学位審査など、国際性の高い人材を育成するプログラムになっており、初年度と比較すると、実践英語力、プレゼンテーション力等が著しく改善され、各界のリーダーとしてグローバルに活躍できる人材の育成に一定の成果をあげていると評価できる。また、海外も含む他機関との連携の在り方が十分検討され、カリフォルニア大学サンディエゴ校とはダブルディグリー制度も準備中であり、今後の進展が期待される。一方、学生が日本発の免疫システム調節治療学推進リーダーになるための体制の構築は、まだ十分とは言えず、今後の改善が望まれる。

修了者の成長とキャリアパスの構築については、平成 28 年度及び 29 年度に修了した計 26 名のうち約 3 割が海外の研究機関で活躍し、学生の中には、在学中のベンチャー企業立ち上げ、学生のみでのウインターキャンプの運営、全国の博士課程教育リーディングプログラム学生会議の主導等の事例が見られ、学生は確実に成長していると評価できる。また、修了者が留学する前後の短期間、千葉大学のポジションにつきながら今後のキャリアパスを考えることができるなど人材交流システムによる継続的キャリアパス支援である **interchange** システムを設けている。このシステムにより、修了者は更にグローバルな教育訓練を受け、リーダーとして育成される構想が描かれているが、修了者の追跡情報が整理され、修了者がグローバルリーダーに成長したことが示されることが望まれる。

事業の定着・発展については、支援期間終了後も学生支援を継続するための財源確保策も講じられており、本プログラムを継続して発展する体制を構築している点は評価できる。また、本プログラムを実施している未来医療教育研究機構及び大学院医学薬学府をモデルとし、理工系、人文社会科学系の教育研究機構及びその下に融合型の大学院を設置し、千葉大学を牽引するトリプルピークとして、本プログラムの経験を全学的な教育改革へと結びつけており、教育環境の変革も期待でき、波及効果も評価できる。免疫治療学を千葉大学の実学にするための仕組み作りや活動の道を拓く努力を更に求めたい。